



あさお市民活動レポート

平成28年度麻生区地域課題対応事業
「あさお市民活動レポート」第2巻 第16号
発行日：平成28年12月1日

発行元：認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター

目 次	
これからは情報～発信と受信～がポイントです	1
点訳グループ 木の芽会	2
やまゆりテック	2
クックメイトあさお	3
@さろん	3
突撃レポート 劇団アットリーチェ	4

これからは情報～発信と受信～がポイントです

いい情報に出会い、豊かな時間を・・・

現在「麻生市民交流館やまゆり」には650を超える団体が利用登録をされています。その皆さんからは、「素晴らしい企画を実施しているのに参加者が集まらない」「素晴らしいグループなのに、メンバーが増えない」などの声が聞こえてきます。

かたや人生80年時代をむかえ、なにか新しいものにチャレンジしたいと考えている人が増えています。

この人達と団体との接点になればと、「あさおふれんず」では、麻生区内で活躍されている団体を区民記者の視点で2009年から取材しています。

そして3年ごとに小冊子にまとめ、昨年度は「*あさおナビ2016」を発刊。110を超える団体をカテゴリー別に掲載しています。

さらに、このたび「*区民記者のホームページ」の掲載記事ページをリニューアル。検索機能を強化し、キーワード検索などで、自分の活動に相應しい団体が、より一層探しやすくなりました。



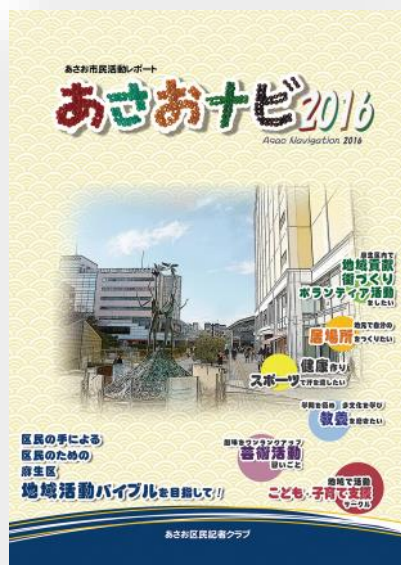
↑「あさお区民記者のホームページ」
<http://www.asao-ku.net/>

現在11名の区民記者が活躍している「あさお区民記者クラブ」では、人に会うことが好きで、書くことが好きな方の入会を歓迎しています。あなたの書く文章は、たぶん地域を変える力を持っているでしょう。

さらに、情報発信をしたいという団体には「突撃レポート」のコーナーがありますので、積極的にアプローチされてはいかがだろうか。



⇒「あさお市民活動レポート」「あさおふれんず」で今まで紹介された120団体の記事が「あいうえお順」「カテゴリー順」で探せます

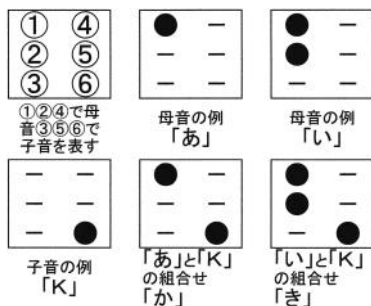


↑「あさおナビ2016」は区役所、麻生市民交流館やまゆりで配布中(残数はわずかです)。麻生区内で活動している市民活動団体を6つのカテゴリー別に編集し紹介しています

⇒「あさおナビ2016」「あさおふれんず」に掲載した団体の最新記事はウェブでも見られます



街で見かける点字、ポチポチの仕組みとは？



工夫のほどが忍ばれる

いろいろな場所で目にする点字。視覚障がい者が使う文字であるがサッパリ分からない。ここではその仕組みのほか、点訳ボランティアで活動する団体を紹介する。

一般に使われる6点式の点字は、フランスのルイ・ブライユが考案、1890年に石川倉次が日本語用に翻案した。図に示すように、6つの点を母音と子音に分け、その組み合わせで五十音を表わす。この黒点の部分で、点字器と点筆を使って、点字用紙に1点ずつ押し付けて凹点を作り、それを裏返し、凸点を指で触って読む。

点訳グループ 木の芽会は、川崎授産学園での点字入門講座の受講生が修了後に設立。主な活動は、個人や関係団体から依頼された本や雑誌、時刻表などの点訳、本の自主的な点訳のほか、小中学校での点字学習の協力などである。

入会のためには先ず点字入門講座を受けてほしいとのこと。近々次の講座が開かれる。ときには桜やバラのお花見にも出かけるなど和気あいあいの会だ。ふるってご応募を。

点字入門講座（全6回）開催

第1回：2月6日（月）10～12時

以降毎週月曜

場 所：川崎授産学園（麻生区細山1209）

参加費：実費

（テキスト、点字器代で1800円程度）

連絡先：Tel. 044 - 954-5011

（川崎授産学園、和地）



全て続けると読みにくい「ふゆわ さむくなつわ あつい」と区切って、分かち書きする

DATA

てんやく き めかい
点訳グループ 木の芽会

あまき さよこ
代 表：天木 佐代子

連絡先：Tel. 044-900-3054

設 立：1985年4月

会員数：28名

（男性：1名、女性：27名）

会 費：2000円/年

活動日：第2、第4月曜 10～12時

活動場所：川崎授産学園

取材・文 区民記者 中島 久幸

やまゆりテック

最高のパフォーマンスを！

暗転した照明の中、スポット照明に浮かび上がるアントニー、思いにふけるよう仰ぐ。音楽スタート。「ちょっとアントニーさん！」突然客席の最前列に座った男が立ち上がる。照明がパッと明るくなる。「何度言わせるのですか！あなたがクレオパトラとデュエットで歌う場面でしょう。」非難するよう演出家役のセリフが続く。

ここは麻生市民交流館やまゆり。普段はサロンとして利用者に開かれた場所。今日は遮光カーテンが引かれ照明機器が階段の踊り場に、右手奥にはピアニスト、音響効果担当が演技の進行を凝視している。ちりりん座が率いる市民劇団のシェークスピア劇場、劇中劇の一場面だ。



9月に公演した「アントニーと三人のクレオパトラ」

やまゆりテックは「やまゆり」で催されるイベントを支える団体だ。歌声喫茶、ダンス集団、楽芸会etc、さまざまな企画にたいして道具、音響、照明等で利用者から最高のパフォーマンスが引き出せるよう支援を続けている。限られたスペース、設備を知恵で補い、スキルアップしてきた。それに呼応するように利用者の要望も高まる。



↑音響機器も多種多様なイベントに対応



月1回のミーティングでは支援するイベントの作業を打ち合わせ、活動方針を話し合う

表現する側とサポートする側の緊張感と一体感、そこに参画する喜びが生まれる。やまゆりテックは今、人材を募集している。

DATA

やまゆりテック

なかごめ きよあき
代 表：中込 清皓

連絡先：Tel. 044-951-6321「やまゆり」

設 立：2016年4月

会 員：16名（男性9名・女性7名）

会 費：なし

活 動：定例会 毎月第1木曜13～15時
および支援イベント開催時

活動場所：麻生市民交流館やまゆり

取材・文 区民記者 景山 茂

料理男子、歓迎されてます！



藤井先生を中心に、食後の満ち足りた時間を全員で

「クックメイトあさお」は、麻生市民館料理室で毎月1回開催されている男性のための料理教室である。自ら調理し健康を維持すること、高齢社会に備えることなどを目的とし、2016年10月には122回目の例会を迎えた。その様子を取材した。

料理室の扉が開くと、皆、談笑しつつ陽気に準備を始める。エプロンと三角巾を身に着け、次に、お鍋、ボールなどの備品を確認。年配？の男性のエプロン、三角巾姿は結構ほほえましい。そしていよいよ教室の開講である。

まず、管理栄養士、健康運動指導士でもある講師の藤井美紀子さんによる、健康のための食事と運動の解説がある。続いて、調理方法の説明。調理は4台の調理台に各5人ずつ計20人を上限とする。藤井さんは説明をしながら、食材を各グループの分に要領よく切り分けてゆく。

いよいよ調理がはじまる。食材を切る音、炒める音、「先生、先生」と藤井さんに助けをを求める声などが混然一体となり、ものを一緒に作り上げる楽しさ・充実感に満ちている。そんななかから、次第に目指す「料理」が姿を現してくる様は、感動的でもある。

できた料理を試食する。「至福の時」とはこんな時間をいうのだろう。腕前を披露し、奥様やお孫さんにも喜ばれているという。



本日の成果。筍と豚肉の炒め物、水餃子、生姜のホットスープとごはん。美味！

DATA

クックメイトあさお

代表：平山 貴晟

連絡先：Tel. 080-3516-4827

e-mail mbirii1016@jcom.home.ne.jp

設立：2006年4月

会員：20名(男性のみ)

入会金：なし

会費：6か月分6500円を一括払い
(材料費等を含む)

活動日：原則として毎月第四水曜日

活動場所：麻生市民館料理室

取材・文 区民記者 仲原 照男

気軽に気楽に集まれる場づくりを

@さろん

「仲間や地域の人と気軽に集まれる場所があれば」とは、よく聞く言葉だ。シニアグループ「あ・そうかい」は、そんな声にこたえて「@さろん」と呼ぶ催しをはじめている。

スポーツやグルメ、歩く会と趣味の活動を楽しんでいる「あ・そうかい」だが、「気楽に集まれる機会をもっと」の要望はやはり多い。それを受け、この6月から月1回、夕刻5時過ぎから麻生市民交流館やまゆりのサロンを借りて、会員がぶらりと立ち寄れる場を設けた。



談笑の中からさまざまなアイデアも生まれる

簡単な飲食を用意して、三々五々やって来たメンバーが談笑の時を過ごす。出欠連絡もなし。なんとも単純な催しだが、参加者は「こんな場を待っていた！」。懇親が深まるだけでなく、活動のアイデアも続々と出てくるからだ。

何ごととも「集まる」ことがはじまり。そこで同会では会員以外にも来てもらおうと考え、まずはこの秋から、「ビジター同伴もどうぞ」と呼びかけている。将来的にはゲストやビジターを増やし、幅広い地域交流やシニア文化発信の場にしていきたいとの夢もある。

はじまったばかりの試みだが、「気軽に集まれる場所」にはさまざまな可能性が詰まっていそう。夕暮れの「やまゆり」から思いがけない輪が次々と広がっていくかもしれない。

DATA

アット

@さろん

主催：あ・そうかい

開催：12月は15日(木) 夕刻

原則として毎月第3木曜

(変更あり)

あ・そうかいホームページ
<http://web-asao.jp/hp2/a-soukai/>
に予定を掲載。

事務局：Tel. 090-6924-4732 (植木)

参加者：20人程度

費用：割り勘で1000円前後

開催場所：麻生市民交流館やまゆりのサロン

取材・文 区民記者 佐藤 次郎

目指せ! 本物の女優

固い「絆」で結ばれた7人の仲間たち

「お母さん、良い縁談があるのよ。お父さんのお友達の黒崎さん」「やだよ、お母さんいい笑いものだよ!」、演技に熱がこもる。“そこは、もう少し怒った様な表情をした方が良くない”、お互いに批評しあう。向田邦子の名作「花嫁」の脚本を手にしての稽古が続く。

「アットリーチェ」とは、イタリア語で「女優」という意味だそう。彼女たちは2013年に「日本映画大学」と俳優や脚本家を養成する「映画24区」というプロダクションとの共同プロジェクト「50歳からの俳優大学」のワークショップ第1期生たち。第1期の卒業生は男女20人くらいだったが、学んだことをこのまま

にしては勿体ないと思った女性7人のグループができた。

俳優大学のワークショップとは別に、仲間の父親で元俳優の指導を7人の仲間で受けるようになり、自分の役を愛して役作りをするのは勿論、他の役の人物への思いやりや想像も大事。それは現実の生活の人間関係が基になっていると学んだ。

仲間には現役のジャズシンガー、元ミュージカル俳優、好きな俳優の元追っかけから専業主婦まで、生まれや育ち、年齢、住まい、家族構成なども全く違う境遇の仲間が、演劇の稽古を通し、仲間への思いやりや自分自身を見つめ直していくなかで「絆」を強めていった。

また、“役者として伸びるためには、観客から少しでも良いからお金を貰いなさい”とも教えられ、2016年春には、有吉佐和子原作の「三婆（さんばば）」など「やまゆり」ではじめて有料公演を成功させた。

「俳優大学」では今年で第5期がはじまっている。第1期から毎年参加し、「やまゆり」では7人の仲間が月1～2回の稽古を続けている。



第一回アトリエ公演「三婆（さんばば）」などを演じた7人の仲間たち（麻生市民交流館やまゆりにて）

演目はまだ秘密だそうだが、来年度の公演に向け第1期の先生に脚本・演出を依頼。「俳優大学」の同期生の男性2人も加えた稽古もはじまる。

「50歳からの俳優大学」のワークショップは、来年度も開講予定。演技未経験者でも気軽に参加できるので、演劇を通して仲間づくりをしたらいいだろう。

（参考）「50歳からの俳優大学」
問合せ先：03-3497-8824
（映画24区 俳優大学事務局）



多忙な日程をやりくりして月1～2回の稽古

DATA

げきだん

劇団アットリーチェ

たにぞえ てるみ

代表：谷添 照美

連絡先：Tel. 044-988-4582

設立：2015年

会員数：7名（女性のみ）

活動日：1～2回/月（公演前は数回/月）

活動場所：麻生市民交流館やまゆり

取材・文 区民記者 上治 信義

取材申込受け付けます!

「活動を紹介して欲しい」「イベントを取材して」
そんな声に区民記者が応えます。
お申込み内容を編集会議で検討したうえ
改めてご連絡させていただきます。

●応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤者が活動に参加している。

●申し込み方法

- ① 団体名
- ② 代表者名
- ③ 連絡先（電話・FAX・メール）
- ④ 活動内容（イベントの場合は開催日時・料金・内容）を、「あさお区民記者」宛てにFAXまたはメールでご連絡ください。

FAX.044-951-6467

Mail  info@asao-ku.net

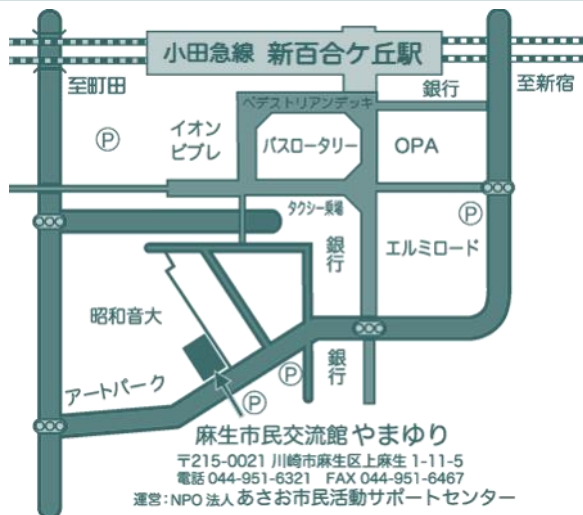
※但し、選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。

あさお区民記者クラブ

「区民による 区民のための情報発信」を目的に活動。
過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。

<http://www.asao-ku.net>

新人記者募集中!!



麻生市民交流館やまゆり

〒215-0021 川崎市麻生区上麻生1-11-5

電話 044-951-6321 FAX 044-951-6467

運営：NPO法人あさお市民活動サポートセンター